

住宅建設の変化

昭和50年代、首都圏での公共住宅供給は「高、遠、狭」による不振が続いていました。日本住宅公団（現UR都市機構）では、国の居住水準向上を目指す政策にも合わせた、新たな都市型低層高密度団地の研究開発を始めました。試設計を繰り返し、海外事例も参考にした公団型タウンハウス第1号が、多摩ニュータウン諏訪3丁目に、1979（昭和54）年3月に実現しました。従来の中層階段室型住棟主体



タウンハウス諏訪の鳥瞰パース 1979(昭和54)年
当時、募集パンフレットに使われた街の完成イメージ図。



初期のタウンハウス諏訪の外観 1983(昭和58)年
玄関が共用庭に面した住戸群が緑の中に静かにたたずむ。



現在のタウンハウス諏訪の路地 2020(令和2)年
両側に玄関が面する団地中央の路地は、家並みや勾配屋根、レンガの壁の連なりが特徴的。

の団地に代わる、専用庭付きの戸建て感覚を持った58戸の新しいタイプの「タウンハウス諏訪」の誕生です。良好な住環境とコミュニティ形成を目指し、4タイプの3LDK住宅の玄関を共用庭又は路地に面して「向こう三軒両隣」の住宅群を形成しています。募集時の高い評価により、その後の多摩ニュータウンの住宅建設は活発に進み、永山5丁目、貝取、豊ヶ丘、落合、鶴牧地区へと続きました。さらに先進事例として、木造タウンハウス、プラスワン住宅、フリースペース付住宅、新型中層住宅などが次々と誕生しました。（山田正司）



建設当初のタウンハウス南野 1986(昭和61)年
戸建住宅が多い南野地区に木造ツーバイフォー(2×4)工法によるタウンハウス団地が誕生した。



現在のプロムナード多摩中央 2020(令和2)年
多摩センター駅に通ずる歩行者専用道路沿いは、プラスα住宅やヒューマンスケールの家並みが楽しさを演出。



現在のタウンハウス落合 2020(令和2)年
富士山が見える宝野公園沿いは、勾配屋根の連なりが特徴的な家並み。



現在のエステート鶴牧4.5 2020(令和2)年
中層階段室型でありながら、従来よりも変化とゆとりを備えた高性能住宅。

新しい祭り

四季折々のイベントに彩られる多摩センター。これらのイベントはそれぞれ異なるルーツと経緯を持っています。

多摩センターの開設1周年記念の「ファインコミュニティフェア'81」の2年後、1983（昭和58）年、5月の連休に合わせ「ガーデンシティ多摩」が東京都により開催されました。1999（平成11）年からは多摩市主催となり、2005（平成17）年、多摩センター地区連絡協議会（以下連絡協）がこれを継承し「ガーデンシティ多摩センターこどもまつり」となって現在に至ります。

夏には落合連合町会の盆踊りと連絡協の夏祭りが風情を添えます。



ガーデンシティ多摩'85

1985(昭和60)年

多摩センターのイベントは、「太陽と緑に映える都市」多摩ニュータウンをテーマに東京都主催の「ガーデンシティ多摩」から始まった。当時は多摩センターも未だ建設途中だった。多摩市の三大祭りは、「ガーデンシティ多摩」と「いきいきTAMAふれあいフェスティバル」と「夏まつり花火大会」としていた。



ガーデンシティ 多摩センターこどもまつり

2019(令和元)年5月

5月3日～5日、中央広場にはこいのぼりが泳ぎ、パルテノン大通りは人波で埋まる。

秋のハロウィンは、パルテノン多摩の開館を契機として多摩市が主催した「いきいきTAMAふれあいフェスティバル」がルーツです。これも2004（平成16）年に地域団体に引き継がれ、連絡協とNPO多摩こども劇場の共催で「ハロウィンin多摩センター」と形を変えて開催されています。10月の最週末、お化けカボチャが灯る多摩センターを仮装した子どもたちが駆けまわります。

クリスマスが近づくと中央広場にセンターランドツリーが輝きます。このイルミネーションは1990（平成2）年、北海道広尾町のサンタランドからモミの木の提供を受けたのが始まりでした。1994（平成6）年、連絡協の前身である多摩センター連絡会（田中登会長）が友好都市・長野県富士見町からのモミの木に変えてツリーを引き継ぎました。2001（平成13）年からは、連絡協を事務局とした実行委員会方式で運営されています。このように多摩センターの成長につれて公的イベントをルーツとして、多摩センターのイベントは地域団体に受け継がれて来ました。新しい祭りの今後に期待しましょう。

（横山陽）



ハロウィンin多摩センター

2018（平成30）年10月
ハロウィンパレード。地元の高校、大学のプラスバンドが行列を先導する。



多摩センターイルミネーション

2018（平成30）年11月
友好都市富士見町から贈られるモミの木のツリーが中央広場に立ち、並木のクスノキに電飾が輝く。

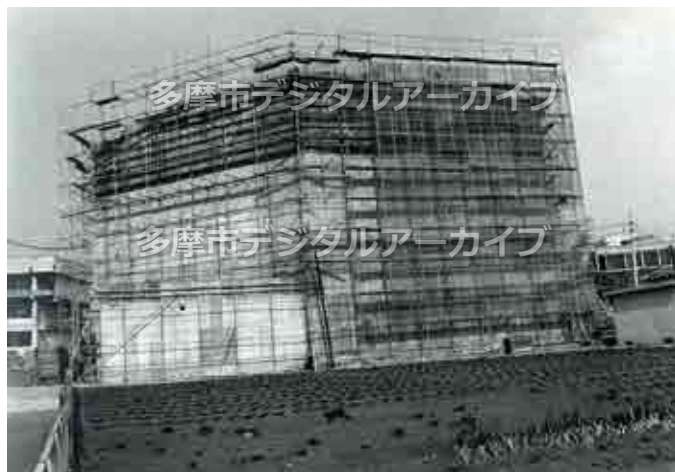
都市機能の充実①公共施設の充実

多摩ニュータウン開発などにより多摩市の人口が急速に増える中、公共施設の整備が望まれるようになりました。

社会教育活動には、役場の庁舎や学校の校舎、農協、自治会集会所などが使われていましたが、1973（昭和48）年8月、市役所の隣に多摩市初となる公民館と図書館が建設されました。運動施設としては、1974（昭和49）年7月にオープンした市民プールを皮切に、1982（昭和57）年に一本杉公園に野球場、1983（昭和58）年10月には総合体育館がオープンしました。



公民館模型 1972（昭和47）年4月



建設中の公民館 1973（昭和48）年5月



公民館 1977（昭和52）年5月

この時期には社会福祉施設の整備も進みました。児童館は1973（昭和48）年4月に完成した一ノ宮児童館以降、永山、愛宕、連光寺、豊ヶ丘、東寺方、諏訪、桜ヶ丘、落合、唐木田の順にオープンしていきました。1975（昭和50）年には多摩市福祉センターが開館し、1978（昭和53）年4月には児童館と老人福祉館を併設した多摩市初の複合施設である連光寺老人福祉館が建設されました。このように、昭和40年代後半から、市内の公共施設は急速に充実していったのです。（事務局）



建設中の総合体育館 1983(昭和58)年3月



市立総合体育館開館式 1983(昭和58)年10月10日



一ノ宮児童館 1976(昭和51)年2月



連光寺老人福祉館開館 1978(昭和53)年4月1日

都市機能の充実②民間商業施設等の充実

多摩ニュータウンでは、鉄道駅開業後の駅周辺の整備によって民間商業施設等の充実が進みました。多摩センター地区は広域拠点となるよう、1980年代後半から1990年代前半にかけて、百貨店、ホテル、大型娯楽施設、多摩中央公園などが建設され、さらに都市機能が充実していきました。一方、



サンリオピューロランド 2008(平成20)年2月



建設中のサンリオピューロランド (左)1990(平成2)年1月、(右)1990(平成2)年4月



大妻女子大学
1989(平成元)年

ニュータウン通りや南多摩尾根幹線の沿道では街の発展とともにロードサイド店舗が増えました。

また、都市機能の充実の一環として大学の誘致もおこなわれ、多摩ニュータウン内に大妻女子大学（1988（昭和63）年）、多摩大学（1989（平成元）年）、国士舘大学（1992（平成4）年）、恵泉女学園大学（1997（平成9）年）がそれぞれキャンパスを開設しました。さらに2012（平成24）年には旧南落合小学校跡地に東京医療学院大学が開学しました。

2000（平成12）年以降も、多摩センター駅周辺にシネマコンプレックスや大型商業施設などが建設されるなど、民間商業施設等の充実は現在も進行しています。（事務局）



多摩大学
1989(平成元)年2月



スタジオフレスコ多摩店 1989(平成元)年

写真左側に、イタリアレストラン「スタジオフレスコ多摩店」が見える。2005(平成17)年に閉店し、現在は八洋多摩営業所になっている。

地図でたどる多摩ニュータウン

地形図は、土地の起伏や土地利用などを知るために、とても役立ちますが、もともとは軍事目的に作成されたものです。近代測量に基づく最も古い地形図は、明治時代に陸軍の陸地測量部が作成した「迅速測図」と呼ばれるもので、多摩村は1882（明治15）年に測量されています。5年後に発行された迅速測図は、単色刷りの地図ですが、その原図は、手作業によって美しく土地利用が彩色され、当時の地域の様子を知ることができます。当時、多摩丘陵の多くは山林に覆われていますが、丘陵の谷間の「谷戸」には、「谷戸田」と呼ばれる水田が開かれている様子が分かります。



1882(明治15)年測量 迅速測量原図「神奈川県武蔵国南多摩郡 小野路村外七村」「同郡坂濱村外五村」
(縮小率77.6%)

陸軍陸地測量部が作成、測量した仮の地形図の原図で、手書きで彩色されており、当時の土地利用や景観が良く分かる。

1912（大正元）年の統計では、山林が村の54%を占め、畑地が約23%、水田が約13%などとなっていて、純粋な農村であったことが分かります。この比率は、多摩ニュータウンの造成が始まる1960年代までは大きく変わりませんが、1970（昭和45）年前後に宅地（市街地）の割合が山林を上回り、その後、人口が急増しました。（浜田弘明）



1957(昭和32)年資料修正 2万5千分の1地形図
「武蔵府中」（縮小率22.5%）

丘陵部は山林が多く、谷戸沿いには水田や集落・畑地が分布する。多摩村の1955(昭和30)年の人口は7,159人。



1977(昭和52)年第二回改測 2万5千分の1地形図
「武蔵府中」（縮小率22.5%）

ニュータウン建設が進んだ時期で道路網が整備され、宅地化が進んでいる。この年の人口は79,321人。



2019(令和元)年調製 2万5千分の1多色刷地形図「武蔵府中」（縮小率46.5%）

近年、地形図はカラー化され、市街地の広がりが見え分ける。この年の人口は148,865人。

神社の再建

多摩ニュータウンの造成による変化は地域全体の変化であり、江戸時代あるいはそれ以前から続いた神社仏閣も例外ではありません。開発の流れの中で廃絶した神社もありましたが、中組稲荷社・秋葉神社・御嶽神社の三社は改めて同じ地に並んで祀られました。乞田八幡神社や和田地域の愛宕神社などは現在の地に遷座されました。ニュータウン造成の後、1989（平成元）年に復活した瓜生御嶽神社のような例もあります。



愛宕神社遷宮祭

1971（昭和46）年10月

愛宕山山頂にあった愛宕神社は多摩ニュータウン開発により山の傾斜地に移転し、遷宮祭がおこなわれた。



乞田八幡神社移転後初の祭礼 1974（昭和49）年

左の写真は、1974（昭和49）年の遷座の後の市民による祭の様子。



乞田八幡神社 2007（平成19）年



瓜生御嶽神社入魂式 1989（平成元）年9月3日

御嶽神社の入魂式の様子。この年、瓜生地域では、御嶽講がおこなわれ、青梅市の御嶽神社に太々神楽の奉納がおこなわれた。

落合の白山神社は、1983（昭和58）年9月に大掛かりな遷宮、本殿の新築がなされました。多摩ニュータウンの開発による区画整理に伴い境内地を整備し、旧社殿を解体し、新しく本殿と拝殿を一体化した権現造りの本殿を造営、遷宮し、地域の鎮守社として再出発をしました。遷宮の際には途絶えていた三匹獅子舞も復活奉納されました。そして地域の守護神として、人々の中核をなす役割を果たし続けているのです。（金丸和子）



白山神社旧本殿のある風景

1975(昭和50)年

白山神社は、遷座以前は開発が進むニュータウンを望む地にあり、落合村の鎮守社だった。



白山神社古神像 男神像、女神像

別当寺であった寺との関わりとみられる十一面観音像や神像など、平安・鎌倉時代に遡るともみられる木像。



白山神社昭和遷宮祭 1983(昭和58)年9月16日
区画整理により解体された社殿を新たに造営し、その遷宮祭の様子。



白山神社新本殿 1983(昭和58)年
本殿、石の間、拝殿を一体とする権現造りの新本殿。

石仏の移動

石仏は、集落内の身近なところや集落の境界などに祀られ、人々に親しまれてきました。子どもを護るとされ人々に親しまれている地蔵には追善供養の意味もあり、六地蔵として造像されることも多くあります。観音の中でも馬頭観音はかなり多く、農家など馬に関係する人々に信仰され、旅の安全も祈りました。人々が集い、信仰する庚申塔も石仏の例です。ところが時間が経ち、区画整理、宅地化が進み、様相が変わると石仏も以前の状態のままではなくなりました。



地蔵院跡の石仏

多摩ニュータウン造成に伴い、再築された中組稲荷社の境内の覆い屋に現在は安置されている。



下落合八坂神社の六地蔵 2008(平成20)年
八坂神社には近隣の地域から石仏が集められ、2組の六地蔵、聖観音像、庚申塔、道祖神などが移動してきた。



関戸観音寺の六観音 2011(平成23)年
三界万霊塔とともに寺の階段下の入り口にあったが、境内の整備をおこない、階段上の覆い屋の中に安置した。

地域に大規模な変革が起きた場合は、石仏が元の地から移されることがあります。明治の神仏分離で廃寺になった地蔵院跡地にあった地蔵菩薩像や六地蔵などの石仏は、中組稲荷社の境内の覆い屋に移座されました。下落合八坂神社、乞田の吉祥院、山王下の^{かきもり}瘡守稲荷社などには近隣の石仏などが集められました。いずれの場合も、新たに移転した場所で現在も大切に守られています。

近年では、観音寺のように寺域内を整備し、覆い屋を造り、お参りしやすい場所に移動する場合があります。（金丸和子）



貝取の大シラカシと庚申塔 1980(昭和55)年
ニュータウン開発時、大福寺の峰にあった樹齢100年を越す大シラカシの移植とともに移された貝取村の庚申塔2基。1740(元文5)年と1704(宝永元)年にそれぞれ建立された。



笠地藏 2008(平成20)年
開発に伴い一時移転したが、ツゲの木の下への元の位置に戻った。日待塔として建立された像である。1700(元禄13)年建立。



白山神社の土公神 2008(平成20)年
土の神として祀られ、明治期に一度移動し、ニュータウン開発に伴い、白山神社拝殿脇に移動した。1858(安政5)年建立。



麦塚・庚申塔と地蔵菩薩像、阿弥陀如来像 2010(平成22)年
かつて移動した時に疫病が流行り、地蔵菩薩の移動が原因とされ、元の場所に戻したと伝わる。地蔵菩薩像は1668(寛文8)年、阿弥陀如来像は1673(寛文13)年建立。

祭りとおこし

多様な人々が集う多摩市では、様々な祭りが活発におこなわれてきました。昔からの住民がおこなってきた鎮守の祭礼は、開発中も続けられ、神社の建て替えや移転の際には遷宮祭が執り行われました。



一ノ宮 小野神社例大祭
2004(平成16)年9月



関戸 熊野神社例大祭
2006(平成18)年9月



連光寺 春日神社例大祭
2018(平成30)年9月



東寺方 山神社例大祭
2011(平成23)年9月



乞田八幡神社例大祭
2004(平成16)年9月



貝取神社祭礼
2019(令和元)年9月



和田 十二神社例大祭
2015(平成27)年9月



落合 白山神社例大祭
2006(平成18)年9月

一方、新たに住民や店主たちがニュータウン区域で始めた祭りや、開発者・自治体が住民を結び付け、地域を活性化させる手段として意識的に始めた祭りもあります。多彩な祭りも多摩市の特色の一つと言えるかもしれません。（事務局）



関戸・東寺方盆踊り風景 1969(昭和44)年8月



桜ヶ丘駅前盆踊り風景 1965～74年(昭和40年代)頃



落合2丁目盆踊り 1989(平成元)年7月



落合夏祭盆踊大会 1996(平成8)年8月



聖ヶ丘2丁目団地内商店街の盆踊り 1989(平成元)年7月

子どもたちと遊び

成長はうたごえと共に

1971（昭和46）年創立の桜ヶ丘第一保育園は、開発途上の多摩ニュータウンの広い荒野を望む百草団地の一角に位置していた。産休明けから就学前までの保育園児116名・保護者・職員・全員が新顔だ。その中でわらべうたは、仲間づくり、人間関係づくりにとりわけ、威力を発揮した。大人も、子どもも、集まれば挨拶代わりにわらべうたが始まる。保育中も自然の中に飛びだし、蛙公園でオタマジャクシを見つけると、蛙が鳴くからかえろ、オタマがいるからいいじゃんかと皆で手をつなぎ行列のた



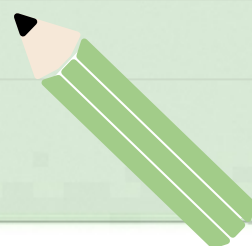
保育園

んぽぽを見つけ、たんぽぽたんぽぽ、向う山へとんで行け「フウ！」と集まって、自然にとけ込んでいく。

ある年、当時ソニーの社長だった井深大氏に二人の保母が40～50名の親子ハイキングに招かれ、荒野の中で氏を囲み、「おちゃをのみに」「ドンドン橋わたれ」など数曲うたい、遊び、楽しんだ。後にソニーは、幼児教育支援財団を設立している。当時わらべうた三昧だったこの園からは、今でもわらべうたの歌声が響いている。（齊藤桂子）



遊ぶ子ども



スポーツ・文化

多摩市では、市民により、様々な文化やスポーツ活動の輪が花開き、おこなわれてきました。これらの活動は地域を豊かにするとともに、様々なふるさとを持つ多摩ニュータウンの人々同士の交流にもつながりました。こうした多様な文化・スポーツ活動は市制施行時から続いているものも多く、多摩市の豊かな文化を形作ってきたと言えるでしょう。



多摩市民祭 1976(昭和51)年11月



多摩市民祭 1976(昭和51)年11月



多摩市民祭 1976(昭和51)年11月



多摩市民祭 1976(昭和51)年11月

■文化活動

市制が施行された1971（昭和46）年11月には、多摩市が主催した文化祭と産業祭がおこなわれました。この市民文化祭を成功させることを目的の一つとして、1972（昭和47）年3月に「多摩市文化団体連合」が設立されました。当初は4団体でしたが、1974（昭和49）年には10団体に増え、多摩市市制施行5周年となる1976（昭和51）年には、多摩市が主催した大規模な市民祭が実施されました。現在では、囲碁、日本舞踊、バレエ、華道、茶道、書道、フラダンス、民謡、かっぽれ、手編み、三曲、美術、詩吟、和紙人形、和太鼓、おわら節踊り、大正琴、ダンスなど18団体が加盟しています。

合唱団体は、1974（昭和49）年に第1回多摩市合唱祭が開催されたことを契機に、多くの団体が設立されました。さらにパルテノン多摩開館前の1985（昭和60）年前後より、多摩童謡友の会、多摩子ども劇場、多摩市民「第九」をうたう会、多摩シティ・バレエ団などが結成され、平成になってからは多摩ユースオーケストラ、Brass Festa 多摩なども登場しています。美術の分野では多摩美術家協会が結成され、毎年展覧会を実施し、映画分野では多摩シネマフォーラムなど全国的に有名な活動をおこなう団体も出てきました。



多摩市民祭本部開所式 1976(昭和51)年10月



市民コーラス 1975(昭和50)年



多摩市少年少女合唱団 1975(昭和50)年

■スポーツ活動

市制施行以前には、1963（昭和38）年8月に設立された「体育会」が体育振興を図り、当時の第一小学校（現多摩市役所）で運動会などをおこなっていました。このような中、多摩ニュータウン開発による急激な変貌を背景に、スポーツを通じて市民同士がコミュニケーションを図ることへの期待感が高まっていました。

1971（昭和46）年の市制施行をきっかけに「体育協会」設立の気運が高まり、1973（昭和48）年7月23日、「体育会」が発展的に解消する形で「多摩市体育協会」が設立されました。当初の加盟団体は、軟式野球、剣道、バレーボール、卓球、バドミントン、軟式庭球、少林寺拳法の7団体でした。その後、つり・柔道・サッカー・バスケットボールが加盟し11団体となりました。

1975（昭和50）年に開催された第1回多摩市民体育大会には加盟の11団体が参加いたしました。その後さらに加盟団体が増え現在は32団体となっています。学校施設、総合体育館・陸上競技場・市民プール・武道館・野球場・テニス場など豊富な運動施設を利用しながら、市民体育大会、各種競技大会など、幅広くスポーツ活動を展開させ、コミュニティ形成に寄与しています。（事務局）



第2回市民体育大会 開会式 1976(昭和51)年9月



第37回市民体育大会 開会式 2011(平成23)年8月